

2019年度に今後派遣を予定している4つの国際大会についてのご案内

および2020東京五輪における日本代表選手の選考方法について

会員各位におかれましては、日頃より私共（一社）日本クレール射撃協会強化委員会の強化活動に対してご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、来たる2020年東京オリンピック大会に至るまでに派遣を予定している残り4つの国際大会の選手選考および東京オリンピックにおける日本代表選手の選考方法についての方針を次の通り発表いたします。

1. オリンピック出場資格についての説明

日本代表選手を選考するにあたり、まずはその前段階として、オリンピック大会の出場資格を得るために必要な条件をご説明いたします。

MQSとQPについて

オリンピック大会に出場するためには、ISSFで設定された最低基準点（Minimum Qualification Score=MQS）をISSF主催の国際大会でクリアしていることが最低条件となります。その上で、国際大会で上位入賞した選手の所属国に対して与えられる出場枠（Quota Place=QP）を獲得することで、当該選手の所属する国がオリンピック大会に出場する権利を得ます。QPは選手個人に付与されるのではなく国に対して与えられます。その後、国内で代表選手が選考されオリンピック大会出場選手が決まります。QPは各国各種目最大2つまで獲得できるので、各国最大2名の選手が1つの種目に出場することが可能です。

日本の場合

今回日本はオリンピック大会開催国であるため、あらかじめ開催国枠としてトラップ男女、スキート男女に各1枠ずつQPが付与されています（トラップミックスは開催国枠がないためQPは付与されていません）。このため上記4つの個人種目については、MQSをクリアしていれば最低1名ずつオリンピック大会に出場することが可能です。

一方で、前述の通りISSF主催の国際大会で上位入賞すればQPを獲得することが可能です。ただし、上位入賞によりQPを獲得した場合は開催国枠として付与されているQPが自動的に消滅します。つまり日本の場合も、1種目で2名の選手がオリンピック大会に出場するためには、他国同様に2名の選手が国際大会でQPを獲得する必要があります。

すでに当協会では、「国際大会でQPを獲得した選手は当該種目のオリンピック代表選手として内定する」と言う理事会決定がありますので、自力でQPを獲得した選手は自動的にオリンピック代表選手となります。

今後QP付与が予定されている国際大会は、現時点で残すところ次の3大会です。

- a. W杯昌原（韓国） 2019年5月7日～18日
- b. W杯ラハティ（フィンランド） 2019年8月13日～23日
- c. 第14回アジア大陸射撃選手権大会（ドーハ/カタール）2019年11月3日～11日

以上3つの大会のうち、まだ派遣選手の決定していないb.およびc.の2大会の選手選考、およびこの3つの大会でQP獲得に至らなかった場合の代表選考については後述します。

上記大会とは別に、現時点でQP付与は予定されていませんがMQSを取得できる可能性がある国際大会は次の2大会です。

- a. 世界選手権（ロナト/イタリア）
- b. 第9回アジアクレ射撃選手権大会（アルマティ/カザフスタン）

世界選手権への派遣選手の選考についてはすでに発表済みの別途予選会要項をご参照ください。アジアクレ射撃選手権大会の派遣選手の選考は後述します。

2. 東京オリンピック大会に向けての選手選考

東京オリンピック大会の代表選手の選考プロセスは、以下の通りです。また、別添の「2020 東京代表選手選考フローチャート」を参照しながら本文をお読みいただくとよりわかりやすいでしょう。

- ① 国際大会において自力でQPを獲得した選手を代表選手に内定します。
- ② アジア大陸射撃選手権大会終了時点でQP獲得選手がいなかった場合、アジア大陸射撃選手権大会出場選手の中から代表選手を選考します。
- ③ アジア大陸射撃選手権大会への出場選手がいなかった種目については、別途代表選考会を開催します。またアジア大陸射撃選手権大会に出場した選手が誰もMQS保持者ではなかった種目については、すでにMQSを保持している選手を対象に最終選考会を開催し、代表選手を選考します。

① 「自力での QP 獲得」

- 国際大会に出場し、そこで上位成績を取って自力で QP を獲得した選手については当該種目の日本代表選手に内定します。
- 前述の通り、各種目最大 2 名が QP を獲得できるので、各種目最大 2 名が日本代表選手になり得ます。

② 「アジア大陸射撃選手権大会での成績を重視します」

- 11月に開催される第14回アジア大陸射撃選手権大会（ドーハ/カタール）を重要な大会と位置づけ、自力で QP を獲得する選手が出なかった場合、同大会をもとに日本代表選手を選考します。
- アジア大陸射撃選手権大会に出場した選手の中から成績上位者を日本代表選手とします。（ただし選手が MQS 保持者であることが前提条件です）
- アジア大陸射撃選手権大会において、エントリーが 1 名となった種目があった場合は同選手を日本代表選手とします。ただし同選手が MQS を保持していなかった場合は、同選手は東京五輪日本代表選手とはなり得ないため、改めて複数回の最終選考会を実施して日本代表選手を選考します。
- エントリーした選手が複数名あった種目でも、いずれの選手も MQS を保持していなかった場合は、いずれの選手も東京五輪日本代表選手とはなり得ないため、前項同様に改めて複数回の最終選考会を実施して日本代表選手を選考します。
- 最終選考会は複数回を予定しております。最終選考会開催の必要が出てきた場合にはできるだけ速やかに要項を公表します。
- アジア大陸射撃選手権大会において、予選会で派遣基準点をクリアする選手がいないためにエントリーが 0 名となった種目については、できるだけ速やかに複数回の代表選考会を実施し、アジア大陸射撃選手権大会の開催日程と近い時期に同種目の日本代表選手を選考します。

③ 「最終選考会」

- アジア大陸射撃選手権大会終了時点で日本代表選手が選出されていない状況が起きた場合に最終選考会を実施します。
- 最終選考会は MQS を保持している選手を対象に複数回開催します。
- 開催の必要が出てきた場合、できるだけ速やかに要項を公表します。具体的な選考方法は発表された要項をご参照ください。

3. 今後の国際大会派遣選手を選考するための 4 回の予選会について

前述の 3 つの国際大会（W 杯ラハティ、アジアクレール射撃選手権大会、アジア大陸射撃

選手権大会)への派遣選手の選考目的に今後強化委員会では4回の予選会を予定しています。

第一回予選会 2019年5月30日(木)、31日(金) 岡山県クレ射撃場
 第二回予選会 2019年6月6日(木)、7日(金) 岡山県クレ射撃場
 第三回予選会 2019年6月20日(木)、21日(金) 伊勢原射撃場
 第四回予選会 2019年8月1日(木)、2日(金) 伊勢原射撃場

- ① 第一回から第三回までの3回の予選会の成績をもとにW杯ラハティの派遣選手を選考します。
- ② 同じく第一回から第三回までの3回の予選会の成績をもとにアジアクレ射撃選手権大会の派遣選手を選考します。
- ③ 第一回から第四回までの4回の予選会の成績をもとにアジア大陸射撃選手権大会の派遣選手を選考します。
- ④ 選考の詳細は、今後発表いたします各大会の予選要項をご参照ください。
- ⑤ 各大会の派遣基準点は、アジア大陸射撃選手権大会で上位入賞を見込める選手を選考することを念頭において算出します。QPが付与された、昨年の世界選手権(昌原、韓国)以降、第一回予選会開催時点で終了しているW杯昌原大会までの大会成績をもとに、各大会でアジア圏の選手の上位6位の選手の得点をピックアップし、この平均点(端数四捨五入)を各種目の派遣基準点として設定します。
- ⑥ 具体的には2018年世界選手権、2019年W杯アカプルコ、2019年W杯アルアイン、2019年W杯昌原の4大会のアジア圏の選手の上位6位の選手の得点をピックアップし、この平均点(端数四捨五入)を各種目の派遣基準点として設定します。

例) 世界選手権(ロナト/イタリア)のトラップ男子の派遣基準点の算出

世界選手権の予選会初日(4月29日)時点で終了している国際大会のアジア圏選手6位の成績は以下の通り。

大会名	アジア圏6位選手の得点	該当選手の国籍
2018年世界選手権(昌原、韓国)	118点	クウェート
W杯アカプルコ(メキシコ)	121点	台北
W杯アルアイン(UAE)	122点	日本

以上3つの得点の平均は

$$(118 + 121 + 122) \div 3 = 120.33$$

端数四捨五入により120点が派遣基準点となります。

4. 強化指定選手の審査について

上記のプロセスを踏みながら、本会は東京オリンピックにおいて、過去最大で最高のメダル獲得もしくはファイナル出場をかけ、11月のアジア大陸射撃選手権大会以降、オリンピック出場権獲得者を対象として「東京オリンピック特別強化チーム」を発足予定であります。

この特別強化チームは東京オリンピックにおいて、日本国民や射撃関係者の皆様へ、夢や希望、そして多くの感動を与えるという重大な使命に邁進する目的で発足させるものです。東京オリンピック大会正選手が決定した時点をもって、現在在籍している本会ナショナルチーム・強化指定選手・協会育成選手はその認定期間に限らず解散とし、特別強化チーム発足の方策に転じます。なお25歳以下の学生育成チームは長期的強化の観点から、特別強化チームとは別に強化を継続致します。

限られた予算の中で大きな目標を達成すべく、強化委員会はこのような方針をとる決断に至りました。対象となる選手や関係各位におかれましては、本協会の置かれた状況と、東京オリンピックに向けて担う重大な使命につきまして、ご理解とご協力を何卒お願い致します。

強化委員会は2020東京オリンピック大会に向けて以上のように日本代表選手を選考し、その後の強化を行う方針です。会員各位におかれましては何卒ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。今後変更点があり次第、HP上で発表いたします。

以 上

2019年4月25日

一般社団法人 日本クレイ射撃協会 強化委員会
強化委員長 及 川 悦 郎

2020 東京日本代表選手選考フローチャート

